

令和7年度補正予算

「産学連携リ・スキリング・
エコシステム構築事業」
補助金事業

大学リ・スキリングプログラム事例集

メニュー②「産業成長」

領域：GXプロ

北海道大学:GX×ネイチャーポジティブで拓く、リ・スキリング教育エコシステム



北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

プログラム概要

① 名称

- GX×ネイチャーポジティブで拓く、リ・スキリング教育エコシステム
ー 産学協働で実装する、グリーンビジネス人材育成モデル ー

② 目的

- グリーントランスフォーメーション（GX）とネイチャーポジティブ（NP）への対応が企業の競争力と成長戦略の前提になりつつあり、両者を統合的に捉えた経営が求められる。本事業では、企業のGX・NPを実務として推進できる人材の育成を目的として実施する。

③ 対象者層

- 主に民間企業においてGX・NPを実務として推進する人材（温暖化ガス（GHG）の排出量算定・抑制やESG金融に関する企業情報開示等に従事する者）、実務者～管理職相当。地方自治体職員等も可。

④ 育成対象の課題・目指す姿

- GXが独り歩きして体系的理解が不足。NPが自社事業とどう結びつか模索中。情報不足かつ、現場で“実務として使えるスキル”が不足し、事業成長の障害に。
- そこで、GXとNPの今後の展開予測に基づき、これに影響される規制・投資判断・製品／サプライチェーン設計を高度に行える人材を育成する。

⑤ 学修成果

- 基礎編：GHG排出量算定の基本をマスターし、それを、全事業工程を一貫した中長期の事業計画に反映させることができる。また、GXとNPへの対応を盛り込んだ企業戦略の策定と企業情報開示に関する基礎的な知識を身に着ける。
- 応用編：GX・NPの視点から自社の事業課題や機会を抽出し、長期ビジョンに基づく事業構想やGX・NPの実装計画を具体化するスキルを身に着ける。

カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

基礎編：新たに創設する「アドバンス」

- ベーシックで得た知識を前提に、受講者がGHG算定や企業情報開示、企業活動先行事例等の重点テーマを選択して学修し、「自社文脈への適用・構造化・ケース化」まで引き上げる上位モジュールである。到達確認と検定判定を通じて学習成果を可視化し、デジタルバッジの発行により企業内での活用に接続する。

応用編：フィールド起点の実践プログラム

- 北海道大学の研究林をフィールドに、森林生態系の長期的変化を学びながらNP経営を探究する2泊3日の集中合宿。フィールド観察や研究者との対話、デザインワークや事業プロトタイピングを通じて、企業の長期ビジョンやGX・NP実装に向けた事業構想を成果物として作成する実践モジュールである。

② アピールポイント

基礎編：アドバンス修了者にはデジタルバッジを発行予定

- 保有スキルの社内外での可視化が可能で、キャリアアップ・異動・再配置におけるスキル証明ツールとしての活用が可能

基礎編：GHG排出量算定、ネイチャーポジティブなどのビジネスツールに直結

- 今、企業において必要とされるビジネスツールにつながるよう、基礎→事例について統合的に学べる重点テーマを準備。参加者自身の課題に直結できる構成。

応用編：森林の長期視点から企業の未来を描く実践プログラム

- 研究林でのフィールド体験と研究者との対話を通じて、GX・NPを企業の未来戦略へと具体化するプロセスが学べる構成。



北海道大学:GX×ネイチャーポジティブで拓く、リ・スキリング教育エコシステム

プログラム詳細

⑥ 受講料

- 基礎編ベーシック 無料 基礎編アドバンス12,000円 応用編30,000円

⑦ 受講人数

- 基礎編ベーシック 200人 基礎編アドバンス 50人 応用編 10人（各定員）

⑧ 受講時間数

- 基礎編ベーシック 9時間 基礎編アドバンス 9～12時間 応用編 2泊3日

⑨ 開講時期・所要期間

- 基礎編ベーシック 10月～6週間 基礎編アドバンス 11月～8週間（対面は集中講義を検討） 応用編 12月 2泊3日

⑩ 社会人の学びやすさへの配慮

- ベーシックはオンデマンド化、アドバンスはハイブリッド 応用編は合宿集中講義

⑪ 実施形式

- 基礎編ベーシック：オンデマンド アドバンス：対面/オンデマンド 応用編：対面

申込方法・サイトURL

- 参加申し込みの方法は下記のURLにおいて公表します。
- <https://hu-gxc.eng.hokudai.ac.jp/news/>

担当連絡先

- 基礎編：GX先導研究センター gxc_office@eng.hokudai.ac.jp
- 応用編：北方生物圏フィールド科学センター gx-mirai@fsc.hokudai.ac.jp

⑫ シラバス

令和8年度実施分は検討中です

昨年度の基礎編

	テーマ
第1回	GXとは何か？
第2回	我が国のGX政策について
第3回	排出量算定とLCA（Life Cycle Assessment）
第4回	今すぐ取る企業アクション
第5回	エネルギー転換と関連技術
第6回	ネイチャーポジティブとTNFD
第7回	GXを動かすお金
第8回	2040から逆算する12か月GXアクション

昨年度の応用編

1 日目	ガイダンス	研究林概要
	フィールドワーク①	北大雨龍研究林
	ミニレクチャー	100年後の道北の森を見据える
2 日目	ミニ講義	林業を変える！持続可能な資源の利用
	フィールドワーク②	北大雨龍研究林
	ワークショップ①	未来の森の暮らしをデザインする
3 日目	ワークショップ②	インパクトから未来の道筋を描く
		最終発表

+

R8年度「アドバンス」で新規に追加する重点テーマ

- GHG排出量の算定
- 企業情報開示とネイチャーポジティブ
- 企業取組事例と最新有効技術

北海道大学:GX×ネイチャーポジティブで拓く、リ・スキリング教育エコシステム

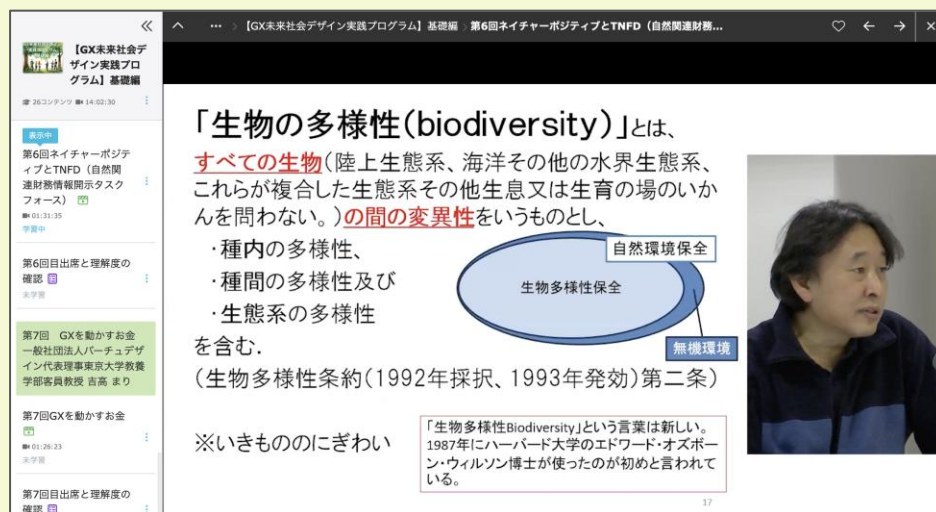


北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

昨年度のプログラム内容 基礎編

プログラム写真

- 受講生専用のLMSによるオンデマンド配信



受講者数

- 115名（GX/サステナビリティ推進、企画・戦略企画担当者等）

実際のプログラム実施内容

- GXとネイチャーポジティブを共通言語として、政策・制度・技術・ファイナンスおよび実装手法を横断的に学ぶ全8回の講義
- ハイブリット・オンデマンド
- 各回ミニレポート提出あり

昨年度成果サマリー

満足度

- 93.5%（「とても満足」「やや満足」と回答した修了者の割合）

受講生を輩出した企業の声

- 先進企業や金融分野など、現場の実体験・肌感覚を直接聞いた点が期待以上だった。
- 企業事例（ビジネスへのつなげ方・実装の工夫）が具体的で、実務視点で学びが大きかった。
- 技術領域だけでなく、社会全体の動きや資金の流れ（金融）の観点まで含めて理解を深められた。
- 「なぜGXなのか」を俯瞰して整理する講義があり、全体像を掴み易い。
- 脱炭素と生物多様性を分断せず、トレードオフも含めて統合的に考える必要性が、科学的背景とともに示され有益だった。

昨年度の実施を踏まえた発展ポイント

新たに「アドバンス」（中級）を創設

- 基礎編（ベーシック）で得た知識を前提に、受講者がGHG排出量算定、NPと企業情報開示、企業活動先行事例等の重点テーマを選択的に学修

デジタルバッジの発行

- 到達確認と検定判定を通じて学習成果を可視化し、デジタルバッジの発行により企業内での活用に接続する。

北海道大学:GX×ネイチャーポジティブで拓く、リ・スキリング教育エコシステム

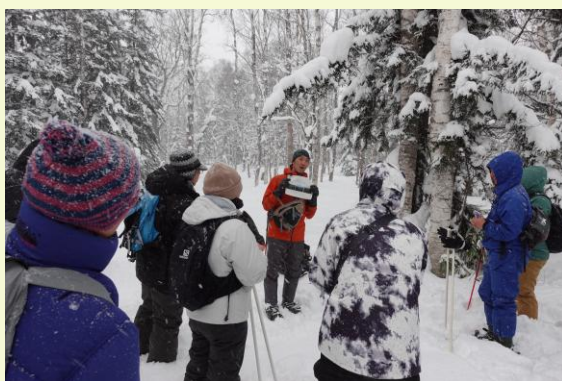


北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

昨年度のプログラム内容 応用編

プログラム写真

- フィールドワークとグループワークの様子



受講者数

- 12名（基礎編受講生＋学生）

実際のプログラム実施内容

- 森林生態系の長い時間軸を体感し、気候変動時代の企業の未来像を描く2泊3日の集中プログラム。
- 現場観察と森林研究者との対話で得た気づきを、デザインとアントレプレナーシップの専門家とともに言語化・構想化し、プロトタイピングを通じて100年先の社会像と企業の役割へと落とし込む。

昨年度成果サマリー

満足度

- 100%（受講生全員が「非常に満足」と回答）

受講生を輩出した企業の声

- 森林研究や地域の現状を踏まえ、長期視点・自然視点を自社の活動や企画に取り入れ、意義を見出してストーリーを描く重要性を実感した
- 北大のアプローチ（現状把握→将来予測→課題設定→解決策検討）を机上で実践でき、事業におけるバックカスティングの心理的ハードルが下がった
- 自然との共生／ネイチャーポジティブは、ビジネスとしての実現性だけでなく「与えるインパクト」を重視して考える視点が得られた
- 自身がGX・カーボンニュートラルを推進する立場にあり、実務として向き合う必要性を再認識した
- 戦略は「今できそうなこと」に過度に縛られず、意味のある大きな目標を恐れずに設定する必要があると感じた

昨年度の実施を踏まえた発展ポイント

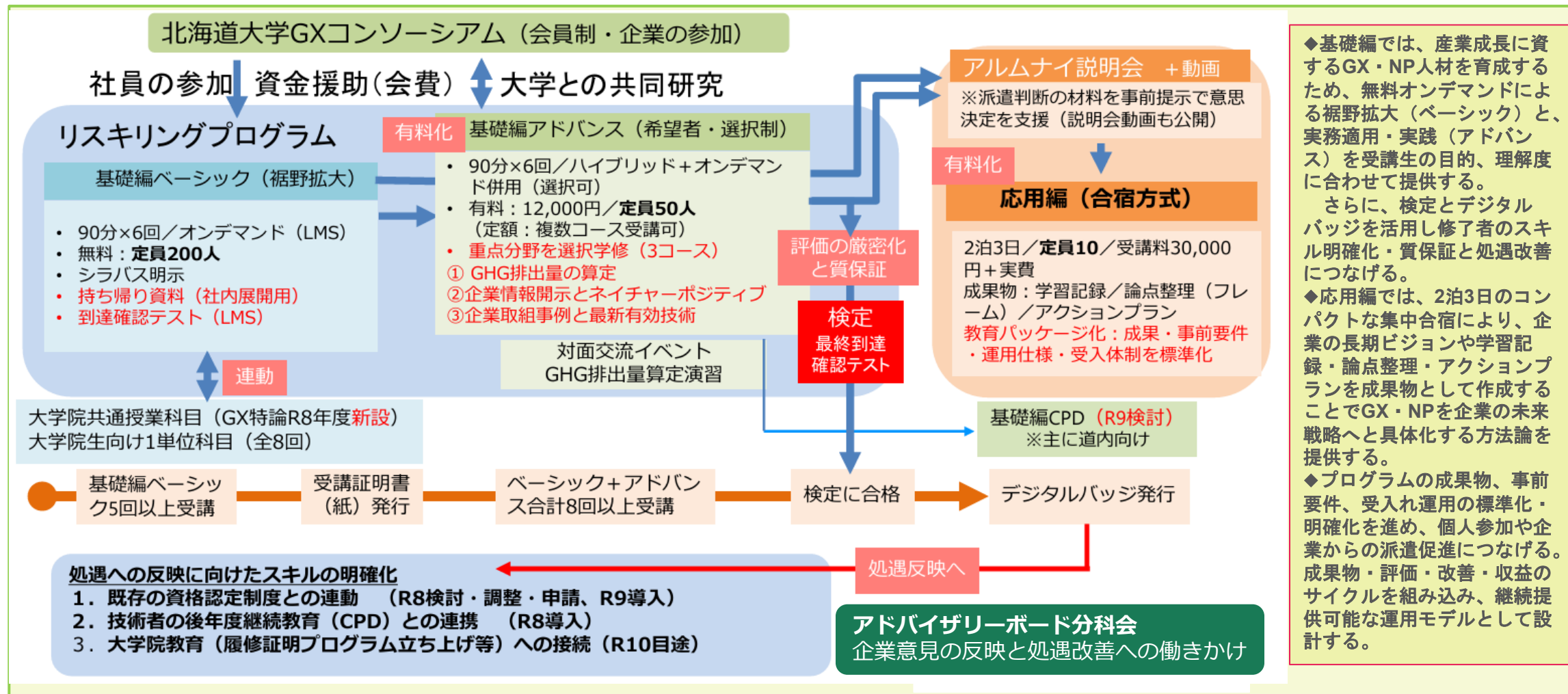
学習成果の可視化と標準化

- 成果物、事前要件、学習設計、受入運用を標準化した教育パッケージを整備し、受講前に学修成果や参加要件を明確化する。また、アルムナイ説明会や短尺動画によりプログラム内容を可視化し、個人と企業の派遣判断を支援するとともに、修了成果の社内評価への活用を促進する。



北海道大学:GX×ネイチャーポジティブで拓く、リ・スキリング教育エコシステム

プログラム詳細



東京大学:未来の戦略を創るLCA人材・ネットワーク構築プログラム

プログラム概要

① 名称

- 未来の戦略を創るLCA人材・ネットワーク構築プログラム

② 目的

- カーボンニュートラル、サーキュラーエコノミー、ネイチャーポジティブへの対応が求められる中、ライフサイクル思考に基づき、環境価値を企業戦略や事業活動へ統合できるGX人材の育成と、企業・業界を越えたネットワーク構築

③ 対象者層

- 多種多様な企業におけるサステナビリティ、GX推進、経営企画、研究開発、生産技術、SCM、ESG開示担当部門の管理職層～実務担当者

④ 育成対象の課題・目指す姿

- 【課題】：Scope3、ESG開示、環境規制対応などへの要求が高まる中、環境価値を部門横断・企業横断で企業戦略や事業活動に統合できる人材が不足している
- 【目指す姿】：ライフサイクル思考に基づき、環境価値を評価・活用しながらGX戦略の立案・実装を主導できる人材の育成

⑤ 学修成果

- ライフサイクル思考およびGX関連制度・国際動向の理解
- LCA、IOA、MFA等を活用した環境価値の評価・可視化能力
- 評価結果を企業戦略や事業設計へ活用する実践力
- 企業・業界を越えたGX推進ネットワークの形成

カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

- 基礎、実習、応用、発展の4段階で構成**
 - 【基礎】：GXやライフサイクル思考に関する基礎知識を習得
 - 【実習】：LCA・IOA・MFA等を活用したケーススタディ演習
 - 【応用】：評価結果を活用した製品設計・事業戦略・意思決定
 - 【発展】：研究会・共同研究を通じた実践とネットワーク形成
- ※ 令和8年度は、ライフサイクル思考の普及を目的として【基礎】プログラムを中心に実施し、幅広い業種・職種への展開を図る
- プログラムの特性に応じた開催方法を採用**
 - 【基礎】：対面・オンラインのハイブリッド形式により幅広い層の参加を促進
 - 【実習】～【発展】：少人数制により、実践的かつ集中的な学習と企業間交流を促進

② アピールポイント

- 東京大学10部局40名超の研究者ネットワークによるコンテンツ作成
- 企業の実課題を題材としたケーススタディ・演習
- 多様な業界との交流機会
- 研究会や共同研究への発展による継続的な学習機会
- 修了者にはデジタルバッジを発行し、習得スキルを可視化

東京大学:未来の戦略を創るLCA人財・ネットワーク構築プログラム

プログラム詳細

⑥ 受講料

- ・ 今後更新予定

⑦ 受講人数

- ・ 170人程度（「基礎」プログラム）

⑧ 受講時間数

- ・ 今後更新予定

⑨ 開講時期・所要期間

- ・ 2026年12月～2027年3月
- ・ 今後更新予定

⑩ 社会人の学びやすさへの配慮

- ・ 参加企業との調整

⑪ 実施形式

- ・ 対面＋オンライン

立命館大学：GXプロフェッショナル＋Rプログラム

プログラム概要

① 名称

- GXプロフェッショナル＋Rプログラム

② 目的

- GXを環境対応や算定業務にとどめず、企業の成長戦略や経営判断として事業に「実装」できる高度専門人材の育成。

③ 対象者層

- GXに関する基礎理解、事業活用、組織変革、経営推進といった各役割を担う人材を対象とした4層を想定。

④ 育成対象の課題・目指す姿

- GXやLCAに関する知識や技術的な蓄積を有している一方で、それらを横断的に統合し、規制対応と成長戦略を一体的に整理・実行する力には、さらなる強化の余地がある。
- 自社課題に基づくアクションプランの策定と社内実装を通じて、GXを事業創出や投資判断などの経営戦略として推進し、企業価値向上や事業成長に貢献できる。

⑤ 学修成果

- 気候変動・カーボンニュートラルおよびGXの基礎を業務に活用する能力、LCA・LCTに基づき事業戦略に反映する能力、自社の強みを活かしたGX関連の事業創出や提案を行う能力、ならびに経営視点で脱炭素に向けた変革を推進する能力をそれぞれ身につける。

カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

• 企業ニーズを踏まえた4層でのプログラム

- GXの「基礎理解」「実装」「経営判断」といった観点で整理し、それぞれに最適な提供形態と定員規模を設定した4つのプログラムを設置。限られた教育資源を効果的に活用しつつ、幅広い産業分野への波及効果と、実践的・高度な人材育成の両立を図る。

• 継続的な知のアップデートとネットワーク構築

- 修了後も産学連携組織（日本バイオ炭コンソーシアム）および研究組織（日本バイオ炭研究センター）と連携し、受講生同士や教員とのつながりを維持しながら実装に向けた継続的な支援を実施。

• 民間企業との強力な協働

- 人材サービス大手の淡路島に本社移転したパナソニックと協働し、関西でのリスクリングを通じた雇用創出、企業ニーズの継続的な把握とプログラムへの反映を図るエコシステムを構築。

② アピールポイント

• 修了者にはデジタルバッジを発行予定

- 全講座一定の修了要件（受講やアクションプラン提出等）を満たした受講者にはデジタルバッジを発行する。保有スキルの社内外での可視化が可能で、キャリアアップや人材配置・評価の基盤としての活用が可能。

立命館大学：GXプロフェッショナル+Rプログラム

プログラム詳細

⑥ 受講料

- GXエッセシャル：今後更新予定
- GXエッセシャル特別講座（LCT）：今後更新予定
- GX-BCR：無料（コンソーシアムからの委託料により運営）
- GX経営：今後更新予定

⑦ 受講人数

- 合計710名（目標）
GXエッセシャル：100名、GXエッセシャル特別講座（LCT）：20名、GX-BCR：20名、GX経営：20名、
日本バイオ炭コンソーシアム及び日本バイオ炭研究センターでの研修事業成果の報告：約300名、
パナグループ主催による研修成果報告会：250名

⑧ 受講時間数

- 全6回～10回 ※詳細は今後更新予定

⑨ 開講時期・所要期間

- GXエッセシャル：9-12月・60分/回
 - GXエッセシャル特別講座（LCT）：10-12月・60分/回
 - GX-BCR：9-1月・90分/回
 - GX経営：11-2月・90分/回
- ※詳細は今後更新予定

⑩ 社会人の学びやすさへの配慮

- 業務負担を抑えつつ学習効果を高めるため、オンデマンド、オンラインと対面（ハイブリッド）、さらに「一泊二日の短期合宿」を組み合わせた柔軟な受講形態を導入。
- LMS（学習管理システム）を活用した教材の事前提供や、要件の選択制、匿名質問導線などを整備。
- 申込時点で全日程や各回の準備物の見通しを提示し、業務調整の負担を軽減。

⑪ 実施形式

- GXエッセシャル：オンデマンド
- GXエッセシャル特別講座（LCT）：オンデマンド+リアルタイムオンライン（質疑応答）
- GX-BCR：対面（一部オンライン含む）+一泊二日の短期合宿形式（ワークショップ）
- GX経営：対面（一部オンライン含む）+一泊二日の短期合宿形式（ワークショップ）

⑫ シラバス

- GXエッセシャル：気候変動のメカニズム、日本のGX関連制度、ESG金融、地域でのカーボンニュートラル 等
- GXエッセシャル特別講座（LCT）：LCTとLCA、LCTとフットプリント・Scope3、サプライチェーン認証、LCTの事業への適用 等
- GX-BCR：環境価値の創造、バイオ炭による炭素除去、バイオ炭のMRV、地域エコシステムの実践、自社アクションプラン作成 等
- GX経営：GXと経営戦略、環境経営（GHG排出量可視化）、自然資本と炭素クレジット、GXとDX、自社アクションプラン作成 等

申込方法・サイトURL

- 右のQRコードもしくは下記サイトから申し込み
（2026年8月リニューアル公開予定）
- <https://www.ritsumeai.ac.jp/open-univ/gx-pro/>



担当連絡先

- 立命館大学 社会連携課
Mail：acr02@st.ritsumeai.ac.jp

立命館大学：GXプロフェッショナル+Rプログラム

昨年度プログラム内容

プログラム写真

- 2025年12月1日 GX-BCR第1回講義、交流会



- 2025年11月20日 GX経営第1回講義、および11月27日 第2回講義、交流会



受講者数

- 574名
GXエッセンシャル：221名、GX-BCR：14名、GX経営：12名、GXサロン：27名、
日本バイオ炭コンソーシアム シンポジウム2026：300名

実際のプログラム実施内容

- GXエッセンシャル：オンデマンド講座10回
- GX-BCR：対面講座8回、第8回はワークショップを実施
- GX経営：対面講座10回、第9～10回はワークショップを実施

昨年度成果サマリー

満足度

- 93%（アンケート結果 等）

受講生の声

- 他分野の先生から話を聞いて参考になった。大学の教養レベルの学びに触れることができ少し充実した時間を持つことができ満足。
- 対面方式で講師と直接対話できたことも理解を深める上で有益であった。
- 各領域(LCA、カーボンクレジット、バイオ炭、GXアントレプレナー等)の専門家がGXを軸に教えて頂いたお陰で、GXの視野が広がった。
- 基本的な事柄（異常気象や生物多様性への影響など）をしっかりと社員へ伝え、CO2削減への取り組みへ転嫁させていきたい。

昨年度の実施を踏まえた発展ポイント

- 「GXエッセンシャル特別講座（LCT）」の新規開設：
ニーズが強かったLCA分野を深掘りし、環境負荷を「測る」だけでなく、投資判断や事業戦略へと繋げて「考える」ための特別講座（Life Cycle Thinking）を新設する。
- 受講形態の全面刷新（短期合宿とオンラインの導入）：
受講負担の軽減と深い交流機会の確保を同時追求するため、講義中心の回はオンライン化しつつ、実践演習には「一泊二日の短期合宿形式」を導入するなど運営を全面的に見直す。
- 初学者支援・参加障壁の低減：
LMSを活用した事前資料の提示や匿名質問の導入、日程の早期提示等により、知識差の吸収と参加しやすさを向上させる。

立命館大学：GXプロフェッショナル+Rプログラム

プログラム詳細

オンデマンド

GXエッセンシャル

GXの基礎知識を身につけ業務に活かす土台を形成

第1回	気候変動のメカニズム・影響予測・目標レベル 長谷川 知子 立命館大学 総合科学技術研究機構 教授
第2回	気候変動を巡る国際的議論と国際法制度整備の歴史 西村 智朗 立命館大学 国際関係学部 教授
第3回	カーボンニュートラルに向けた国際潮流（主要地域・国の動向） 島田 幸司 立命館大学 経済学部 教授
第4回	日本のカーボンニュートラルとGX関連制度 小杉 隆信 立命館大学 政策科学部 教授
第5回	カーボンニュートラルと炭素回収・貯留・利用 小杉 隆信 立命館大学 政策科学部 教授

第6回	カーボンニュートラルに向けた日本の政策展開と課題：再エネ普及に焦点を当てて 島田 幸司 立命館大学 経済学部 教授
第7回	カーボンニュートラルとESG金融 青野 孝平 立命館大学 経済学部 教授
第8回	カーボンニュートラルとサーキュラーエコノミー 橋本 征二 立命館大学 理工学部 教授
第9回	カーボンニュートラルと地域社会～都市の気候変動対策について～ 梶井 拓也 京都市地球温暖化対策室 エネルギー政策部長
第10回	ナッジ（情報提供）による電力消費の行動変容 島田 幸司 立命館大学 経済学部 教授



GXエッセンシャルLCT特別講座

オンデマンド+リアルタイムオンライン（質疑応答）

<主な講師>



LCT・LCA
立命館大学
理工学部 教授
橋本征二

LCA等の定量評価から事業戦略を「考える」力を育成

<講座例>

- LCTとLCA
- LCTとフットプリント・Scope3
- LCTと関与物質総量（TMR）・資源管理
- LCTとサプライチェーン認証・クレジット・環境ラベル



GX-BCR

対面・オンライン（ハイブリッド）+一泊二日の短期合宿形式

GX/Biocharを使った新事業・提案ができる人材を育成

<講座例>

- GXを通じた環境価値の創造と地域エコシステム
- GXと政策及び炭素クレジット
- バイオ炭の特質と方法論
- ワークショップ（GXの実践）

<主な講師>



バイオ炭
立命館大学
日本バイオ炭研究センター
名誉センター長
OIC総合研究機構
上席研究員
柴田晃



GX経営

対面・オンライン（ハイブリッド）+一泊二日の短期合宿形式

<主な講師>



GX・経営
立命館大学
経営学部 教授
依田祐一

GXを経営戦略に統合できる判断力・構想力を育成

<講座例>

- GXと経営戦略
- GXと政策、市場
- GXと環境経営
- GXとDX
- ワークショップ（GXの経営戦略）

